※令和４年度以降入学生用

| 学校番号 | 1005 |
|---|---|

# 令和５年度　芸術科（音楽）

| 教科 | 音楽 | 科目 | 声楽 | 単位数 | ２単位 | 年次 | ２年次 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 使用教科書 | なし | | | | | | |
| 副教材等 | コンコーネ中声用（全音楽譜出版）他 | | | | | | |

## １　担当者からのメッセージ（学習方法等）

声楽に関する基礎的な技術を習得して、音楽性豊かな表現ができるようになりましょう。

## ２　学習の到達目標

・音楽を表現するために必要な技能を身につける。
・声楽に関する学習を通して、音楽的な見方・考え方を働かせ、専門的な音楽に関する資質・能力を身に付ける。
・音や音楽、音楽文化と豊かに関わり主体的・協働的に表現及び鑑賞の学習活動に取り組もうとする態度を身につける。

## ３　評価の観点及びその趣旨

| 観点 | a:知識・技能 | b:思考・判断・表現 | c:主体的に学習に取り組む態度 |
|---|---|---|---|
| 観点の趣旨 | ・曲想と音楽の構造や文化的・歴史的背景などとの関わり及び音楽の多様性について理解を深めている。 知識<br><br>・創意工夫を生かした音楽表現をするために必要な技能を身に付け、歌唱で表している。　技能 | 音楽を形づくっている要素や要素同士の関連を知覚し、それらの働きを感受しながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて考え、どのように表すかについて独自の表現意図をもったり、音楽を評価しながらよさや美しさを深く味わって聴いたりしている。 | 音や音楽、音楽文化と豊かに関わり主体的・協働的に表現及び鑑賞の学習活動に取り組もうとしている。 |

上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、学年末に５段階の評定にまとめます。学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。

※令和４年度以降入学生用

４　学習の活動

| 学期 | 単元名 | 学習内容 | 単元(題材)の評価規準 | 評価方法 | | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | | 知(a) | 思(b) | 主(c) |
| 1学期 | 歌うための基本技術を身に付ける | 歌う姿勢の確立<br>呼吸法<br>発声、発音<br>音程のとり方<br><br>発声教本[コンコーネ]<br>斉唱<br>2部合唱<br>混声3部合唱 | a:【知】曲想と音楽の構造や歌詞との関わりについて理解している。<br>【技】創意工夫を生かした歌唱表現をするために必要な、曲にふさわしい発声、身体の使い方などの技能を身に付け、歌唱で表している。<br>b:音色、リズム、速度、旋律、テクスチュア、強弱、形式、構成を知覚し、それらの働きを感受しながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて考え、どのように歌うかについて表現意図をもっている。<br>c:曲想と音楽の構造や歌詞との関わりに関心をもち、主体的・協働的に歌唱の学習活動に取り組もうとしている。 | ワークシート<br><br>演奏の聴取 | ワークシート<br><br>観察 | 観察<br><br>演奏の聴取 |
| 2学期 | 声の世界を広げる | 混声2・3部合唱<br>同声2・3部合唱<br>少人数のアンサンブル<br><br>ポップスのアレンジ曲<br>オリジナルのコーラス曲 | a:【知】曲想と音楽の構造や歌詞、文化的背景との関わりについて理解している。<br>【技】創意工夫を生かした歌唱表現をするために必要な、曲にふさわしい発声、言葉の発音、身体の使い方などの技能を身に付け、歌唱で表している。<br>b:音色、リズム、速度、旋律、テクスチュア、強弱、形式、構成を知覚し、それらの働きを感受しながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて考え、どのように歌うかについて表現意図をもっている。<br>c:曲想と音楽の構造や歌詞、文化的背景との関わりに関心をもち、主体的・協働的に歌唱の学習活動に取り組もうとしている。 | ワークシート<br><br>演奏の聴取 | ワークシート<br><br>観察 | 観察<br><br>演奏の聴取 |

※令和４年度以降入学生用

| | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 3学期 | 表現意図を持って表現をする | 混声3部合唱<br>少人数アンサンブル<br>二重唱、三重唱<br>独唱 | a:【知】曲想と音楽の構造や歌詞、文化的背景との関わりについて理解している。<br>【技】創意工夫を生かした歌唱表現をするために必要な、他者との調和を意識して歌う技能、及び合唱やヴォイス・アンサンブルなど表現形態の特徴を生かして歌う技能を身に付け、歌唱で表している。<br>b:音色、リズム、速度、旋律、テクスチュア、強弱、形式、構成を知覚し、それらの働きを感受しながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて考え、どのように歌うかについて表現意図をもっている。<br>c:曲想と音楽の構造や歌詞、文化的・歴史的背景との関わり、合唱やヴォイス・アンサンブルによる表現の特徴に関心をもち、主体的・協働的に歌唱の学習活動に取り組もうとしている。 | ワークシート<br><br>演奏の聴取 | ワークシート<br><br>観察 | 観察<br><br>演奏の聴取 |

※　表中の観点について　a:知識・技能　b:思考・判断・表現　c:主体的に学習に取り組む態度